

# 第3回東彼杵町小中一貫教育 導入検討委員会会議録

東彼杵町教育委員会  
令和6年7月23日

1 開 会 令和6年7月23日(水) 午後2時00分

2 閉 会 令和6年7月23日(水) 午後4時00分

3 出席委員 木村 国広委員、佐藤 和則委員、富永 裕子委員、森 保憲委員、毛利 政俊委員、永島 大輔委員、高原 郁美委員、中原 康尊委員、中路 知恵委員、吉永 信一郎委員、正尾 敏委員、生田 真委員、山下 竜斗委員、高坂 順喜委員、樋口 京子委員、滝川 恵委員、粒崎 秀人委員、岡田 半二郎委員、山口 厚委員、松山 幸一郎委員

4 事務局 三根 幸博学校教育係係長、岩川 克行小中一貫教育導入検討事務局

- 5 案件事項
- (1) 委嘱状の交付
  - (2) 委員及び事務局職員の紹介
  - (3) 教育長あいさつ
  - (4) 第2回検討委員会の概要及び委員アンケート等について
  - (5) 議事
    - ① 東彼杵町小中学校教育の将来に向けてのアンケートについて
    - ② 先進地視察について
    - ③ その他
  - (6) 次回の検討委員会について
  - (7) 第2回検討委員会についてのアンケート記入

- 6 資 料
- 1-① 会次第
  - 1-② タイムスケジュール
  - 1-③ 東彼杵町小中一貫教育導入検討委員会委員等名簿
  - 2-① 第2回検討委員会会議録
  - 2-② 第2回検討委員会委員アンケート
  - 3-① 東彼杵町小中学校教育の将来に向けてのアンケートに関する意見・質問集約表
  - 3-② 東彼杵町小中学校教育の将来に向けてのアンケート・設問のねらい(修正①)
  - 4-① 先進地視察資料①
  - 4-② 先進地視察資料②
  - 5 第3回検討委員会についてのアンケート

## 7 議事内容

### <教育長>

皆様、改めましてこんにちは。今日はたくさんご出席いただきありがとうございます。これまでで1番の出席者数かと思っております。

本日、第3回目を迎えました。前回検討会議の後のアンケートにつきましては、率直なご意見や感想気づきをお寄せいただきましてありがとうございました。また事前配布しました、児童生徒・保護者・教員対象の意識調査の内容についても、細かい字句まで丁寧な精査や、修正案の提示いただき、重ねて感謝申し上げます。

大学生の山下委員の初出席が叶いました。検討委員に自ら応募いただき、若手世代の意見を反映させるために、委嘱をさせていただいております。過去の資料や会議録は送付しており、ある程度ご理解いただけていると思います。よろしく願いいたします。

さて検討会後のアンケートの結果、資料2の①の最後のページに円グラフがあります。見て頂いてわかりますよ

うに、児童生徒数の減少傾向の将来予想と小中学校3校舎の老朽化に伴う小中一体型の校舎建設は、避けられない課題と受け止めている方が多いと思います。

一方で、事務局説明に対する理解や小中一貫教育のイメージ把握、小中一貫教育導入の是非については、どちらともいえないという方も、一定いらっしゃると思います。その認識の上に立ち、将来の学校の理想の姿、最終ゴールとして小中一体型校舎施設での小中一貫教育を目指すべきか否か、小中一体型校舎でいかにより良い豊かな教育を行うか、そのための教育システムの1つである小中一貫教育学校の導入の是非について、より広い観点からさらに検討を深めたいと思います。

本来、小中一貫教育を行う必要があり、こういう良さがあるから一体型の校舎の施設を建設しようというのが本質ですが、ここ数年は大きな市でも、中学校単位で小規模化を回避し、ある程度の学校規模を維持するために小中一貫教育を導入する所が増えていきます。

お手元に、島原市の小中学校の編成と再編の資料をのせています。素案では、三会地区で、現在の有明中所在地に設置する小中一貫校の1校に集約するとなっています。

佐世保市においては、すでに令和2年3月に佐世保市学校再編基本方針が出され、それよりも2ヶ月早く、佐世保市通学区審議会答申が出されています。それを受けて方針が作られています。この審議会答申は、今私たちが行っている検討委員会と同じ意味合いの審議会です。そこが答申を出し、そして方針を出したということで、表には全部の学校が書いてあります。ほとんどが、統合か一貫教育で、計画・構想が立てられており、具体的な児童生徒数も載せてあります。網掛けの黒塗りが、小中一貫校になるのだらうと思います。ほかは、統合で済むのだらうと思いますが、そういうのが早く出ている市もあります。かなり全国的な傾向にあります。

これまでの検討会では、校舎施設分離型の必要性や時期についても質問や意見が出され、この課題は、導入の方向性が決まってから、タイムスケジュールの中で検討したが良いと考えます。そこで、導入の是非を判断するために、確認したいことが4点ございます。

1点目は、校舎一体型の小中一貫教育では、どういうことができ、どのような可能性があるか、メリット・デメリットの理解を深めることです。

2点目は、児童生徒・保護者・地域・教職員への意識調査によって、現状の課題認識、児童生徒数減少に伴う制約への不安、小中学生の交流・合同活動への意識、小学校から中学校への滑らかなつなぎ、学年の区切りの必要性の認識を把握することが大事だと思います。以前、お配りした議会説明資料に一貫教育の種類が示してあり、下の方に導入・検討の必要性を10項目程あげています。これが意識調査の視点になります。

社会的背景については、保護者や教職員には、説明書きを加えた方が良いと考えます。ただし児童生徒には、児童生徒数の減少で制約を受けることの説明や意識調査で子どもたちに直接、結論的な導入の是非や希望は聞かない方が良いと思います。なぜかと言うと、結果に流されてしまい、子どもたちが望んだからということに、結局よってしまうと思います。

子どもたちが背景やメリット・デメリットを正確に理解できるかは難しく、私たち大人でも難しいところです。背景やメリット・デメリットを把握した上で結論を出すのが大事ですので、子ども達に先に聞いてしまうのはまずいと思います。そういう結論めいたことは、意識調査にはできないと考えます。

3点目は、児童生徒数の減少の予測による校舎建設の適切な完成時期もある程度、提言として盛り込んだ方が良いでしょう。ある程度ゴールを決めることで、次のタイムスケジュールを検討できるからです。導入までに、どのようなことが必要か、児童生徒数の減少が早まっても大丈夫か、老朽化が切迫しても大丈夫かとか、設計の段階で一貫校の経験をしていれば、分離型であっても要望を反映させられるということも考えられます。

4点目ですが、小中一貫教育の先進地域に出向き、実際に校舎・施設を見て、関わった人の話を聞き、一貫校のイメージやメリット・デメリットや導入までの取り組みについて、実感したり検証したりできると思います。

本日は、意識調査の実施についてが、中心となると思いますが、ご検討をよろしくお願いいたします。

## <進行>

続きまして、第2回検討委員会の概要及び委員のアンケートについて、事務局より報告説明をお願いします。

<事務局>

第2回の検討委員会の概要…資料2-①

- (1)「検討委員会の進め方について」:本年度最後の令和7年3月、小中一貫教育の導入の是非の決定と答申のための町民関係者からのアンケート、先進地の視察等により情報を集めることを確認。
- (2)「町立学校の小中一貫導入教育導入に関する経過と東彼杵町立学校の現状と将来予測について」
- ①5月1日で、児童生徒数が確定。
- 生徒数と出生数等を参考に、令和6年～令和18年までの推移を算出。
    - ・あまり減ってきている状況ではない。
    - ・資料・4ページ:令和6年～令和18年までの就学予定者数の令和5・6年の5月1日の比較
      - 移住者等の町行政の取り組み等により、両小学校とも減る予測ではないことが確認。
- (3)「小中連携教育から小中一貫教育へ」(資料・8ページ)
- ①小中連携教育:「小中がお互いに情報交換や交流を行うことを通して、円滑な接続を目指すさまざまな教育」
- ②小中一貫教育:「目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し系統的な教育を目指す教育」
- (4)「小中一貫教育の教育内容・カリキュラムについて」(資料・8ページの下)
- 事例の学校のカリキュラムを提示

<事務局>

第2回検討委員会委員アンケートについて…資料2-①

	①説明はよく理解できた		②イメージはつかめた		③小中一貫教育は導入すべき	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
A:とてもそう思う	7.7%	31.3%	15.4%	43.8%	30.8%	62.5%
B:どちらかといえばそう思う	92.3%	50.0%	76.9%	43.8%	61.5%	31.3%
C:どちらともいえない	0%	18.8%	7.7%	12.5%	7.7%	7.7%
D:どちらかといえばそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%
E:全くそう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%

④意見・質問・不明点・気づき・感想

- 「いろいろ課題があるが、導入の是非を検討するにはいろんな整理が必要じゃないか。」
- 「それぞれの当事者の子どもたちや教職員、或いは保護者、地域の皆さんのいろんな方向からの考えを検討していかないといけない。」
- 「令和13年以降の人数が予想として出ているが、そうなるか心配。」
- 「特に千綿小学校の方が人数の減少がはやく、複式学級になっていくということの現実をどう考えていくのかも、1つの課題。」
- 「導入後、そこから先の5年・10年・30年・50年後のことについても、学校教育だけの範疇ではないと思うが、いろんな思いを馳せる必要があるのではないか。」
- 「いろんなことを始める時にはいろんな課題が当然出てきますけれども、その課題をちゃんと1つ1つ向き合いながら進めていく必要があるのではないか。」

<進行>

議事録を教育委員会のホームページに公開することを第1回の会議でご承認いただきました。検討委員会での検討内容を地域の方たちにもお知らせする意味でも、会議録を公開いたします。

それでは、議事に入らせていただきます。木村先生、議事の進行をよろしくお願いいたします。

## <議長>

長崎大学の木村と申します。私もともと小学校の教員で、教諭・教頭・校長や、後半は主に長崎県の教育委員会で、義務教育の県全体のお世話を長くしてきました。その後、大学の教員になり、中央では中央教育審議会の教員養成部会の委員6年目で、教員の育成、大学の教育内容、教員採用、研修会等についての国の方針を決める委員をしています。最近では、「教員教職魅力化作戦会議」の座長もしています。「スリキヤス長崎」という、小学校の先生を中心に自主サークルも立ち上げたところです。現場の先生たちが、元気だというのが、子どもたちにはもちろん保護者・地域にも、未来の先生になる人と学校教育をつなぐ人を育てるうえでも大事だと思っています。

いろんなところで学校教育の話をするのですが、私の学校教育、教職としての原則は、学校は子どもの行きたいところでありたい。これを今、ど真ん中に置いて施策を考え、大学での授業に取り組んでいます。

この話題でも、東彼杵町の子どもにとって行きたい所が学校になる、東彼杵町の学校が子どもにとって行きたいところになる、子ども達を支える先生方・保護者・地域がそれによって元気になり、地域全体がますます活性化する1つのプロセスを提案されていると思います。

一方で、3回までのお話を聞くと、難しいこともたくさんありそうです。こういう活動は、そういうところが一定合意ができないと、進むものでもありません。そのために、ぜひご意見やご質問をいただきたいと思います。

前回の最後に、こんなことをしゃべっています。「今日、学校関係者のみの発言しか引き出せず、申し訳ございませんでした。次は気をつけます。今回は、皆さんが発言できるように努めます。…」今回はできるだけ、皆さんから意見を拾うように頑張ります。

では早速、議事に入らせていただきたいと思います。

1つ目ですが、教育長さんが4つの項目の2つ目とされた、児童生徒・教職員・保護者の意識調査の内容について説明、質疑応答という段取りで、15時を目途にこの話題にしたいと思います。よろしく願いいたします。

## <事務局>

資料3-①、資料の3-②を同時にご覧いただければと思います。

前回会議でお配りしたものとご案内で送付した分で、アンケートの項目・内容が違っていました。修正したものをお配りしており、今回はそれに基づき、設問のねらい等についても触れながら説明していきます。

みなさんからのご指摘やご意見等を集約をした表が資料3-①、それを受けて修正を加え、アンケートのねらいも掲載した分が、資料3-②です。

## 「全体」

ONo.1:「どんな文章にしてよいか分かりませんが、これは全ての児童対象ですか。支援学級や通級のお子さんについて、保護者の側の立場で書きましたが、全てのお子さん対象であれば大丈夫です。」

- ・前回も触れましたが、京都府宇治市の資料を参考にしています。ここも、10年以上一貫教育に取り組まれていて、ずっと追跡調査をされています。対象の学年としては、小学校については4・5・6年生、中学校については1・2・3年生と考えています。

## 「A:小学生(小4~小6)対象アンケート」

ONo.2:「『2 次の質問①~⑫』 → 『2 次の質問①~⑪』」

- ・修正。項目の追加や削除に応じて対応。

ONo.3:「質問が間接的で、このアンケート結果をどのように今後の計画に活かすのかイメージできない。」

- ・まず、現状、実態、意識を把握する。

ONo.4:「小学生も1番の当事者として、小中一貫教育を検討していること、それがこのようなもので、なぜ必要かを説明しても良いのでは。その上で、不安や提案を書けば。」

- ・先ほど教育長の説明にもありましたが、大人でも難しいところがあり、検討が必要。

ONo.5:「自由記述をふやしては。」

- ・具体的に何を聞くか、把握したいか。ある市の教職員対象のアンケートでは、先生方の不安等を記述式で取っ

た結果、50ページ程の分厚い冊子になるくらい先生方の疑問等が出ていた。それに1つ1つ対応するのは大変で、項目としてどう上げるかを考えると、「ご質問があればお書きください。」という形になるのではと思う。

○No.6:『他の学年や他の小学校や中学校との一緒に活動が楽しいと感じる。』は、『または一緒に活動してみたい。』という、子どもたちの意欲を聞く文にしたら」

・指摘通りで、追加する。

○No.7:「上級生や中学生をすごいと思ったり、『あこがれたりする』を追加。※すごいという言葉では意味が広すぎて、何がすごいのか伝わりにくいと思います。」

・「憧れたりする」を追加。

○No.8:「質問で『感じる』と『思う』とではどう違うのですか?『思う』に統一した方が分かりやすいのでは?」

・「思う。」に統一。

○No.9:「⑤の地域の行事に対して、⑦の行事とは学校行事のことですか。」

・「学校行事」に変更。

○No.10:「複式学級の説明。アンケートの実施方法」

・②の11で、「1クラスの人数が少なくなると、グループやチームでの活動の時に困ると思う。」としている。

・「2つの学年を1人の先生が担任するのが『複式学級』です。」の追加を検討。

・アンケート実施方法等:①実施時に質問を受け、必要なら先生方から子ども達に説明していただく。

②東彼杵町は小中学校が ICT の活用が当進んでおり、持ち帰って活用もされているので、親子で ICT を使った回答にすることで処理が非常に簡単になる。その方向での実施を検討。

#### 「B:中学生(中1~中3)対象アンケート」

○No.12:「東彼杵町の中学校は1校なので、中学校の表記は必要か?」

・「中学校」削除

○No.13:『担任以外の先生、他の先生に教えてほしいと思う。』※中学校はすでにその状況なので、この項目は必要か?」

○No.22:「⑥→すでに実施されているのではないかと思うのですが…。『同じ教科でも、担当以外の先生の授業を受けてみたいと思う』などもう少し幅を持たせるパターンもあるのかもしれない。」

○No.26「…、例えば『担任以外の先生や他の先生に教えてもらうことはよいことだと思う』というように、複数の先生がかかわることへの価値を問うたらどうでしょうか。」

・「担任以外の先生や、同じ教科でも担任以外の先生に教えてほしい。または、教えてもらうことは、良いことだと思う。」という文言に整理。

○2⑩として、「1クラスの人数が少なくなると、グループやチームでの活動の時に困ると思う。」を追加。

○3⑦に、「学習内容が難しくなること」、3⑧に「授業につまづいたときが心配」を追加。

・保護者のアンケートの43、E の中学校の方にも、「不安なこと」あるいは、「子どもさんが不安に思う」に、「授業につまづいたときが心配」の項目があり、重なる内容として、⑦⑧に追加。

・保護者と児童生徒の意識の違いについて、クロス集計を行い、違いと見ていくため。

#### 「C:教職員対象アンケート」

○No.28:「…成果が現れることを…。」 → 「…成果が現れたりすることが」

・整理・変更。

○No.29:「2の前半は『そう思う』としか答えようのないような質問のように思える」

・先生方それぞれで考え方も違い多様だということ、また「そう思う」にしても、「どちらといえばそう思うのか」「(完全に)そう思う」のか、その度合いを聞く。

○No.30:「事前に小中一貫教育の意義やメリット、デメリット、今後の選択肢について説明した上で、賛否を明確にしては。」

・教育長挨拶にもあったように、今後、事前資料として説明資料を準備。

ONo.31:「自由記述を増やして、現場の課題や不安、問題意識を集めては」

・欄を設けて記入していただくことで対応可能。

ONo.32:『『義務教育学校(小中一貫校)へ転勤したいと思う。』を追加してはどうか?』

・経験の有無はあると思うが、どのような答えが返ってくるかわからないが、理由も書いてもらえば、「小中一貫教育について、自分には情報がない」等の答えも予想されるのではないかと思う。

「D:小学生保護者対象アンケート」・「E:中学生保護者対象アンケート」

ONo.38:「2の前半は『そう思う』としか答えようのないような質問のように思える」

・度合いを尋ねている。

ONo.42・53:「①保護者向けアンケートの項目は、「～してほしいと思う」の文末と、「～してくれていると思う。～してくれている。」の文末の2種類が混在しています。保護者に対して、将来への願いを調査するものか、現状も調査するものか、どちらとも必要なのか、分けて問う必要はないのかなど、少し整理が必要かなと感じました。標題が「実態・現状把握アンケート」ですので、両方かと思いますが・・・。

②また、結果の分析をする際、児童生徒の結果と保護者の結果を比較するならば、どの項目同士が関連しているのかを予め整理しておくといのいかなど思いました。(例えば、保護者は強い意向があるが、児童生徒はそこに価値を見出していない・・・とかがわかってきたりするかなど思いました。)」

・①:すべて今の現状や実態を問うということで、例えば、「授業で、これまで習ったことや今後習うことに触れるなど、学習内容のつながりを意識してくれていると思う。」という文言に訂正。

・②結果分析では、保護者と児童生徒の結果の比較、他の部分でも、関連項目を整理して、クロス集計を実施。

<議長>

確認したいのですが、説明があった回答・対応の赤い部分は、委員の皆様からのご指摘通りに変更。

黒い部分は、ご意見いただいたけども、こういう考えで変更しない方向でいきたいということですかね。

青い部分なんですけど、検討というのは、もう1つ資料3-②というのがあるんですが、これは資料3-①を集約した、修正版というふうに考えていいんですか。青い部分は検討した結果、修正版のような形になったということなんです。それでいいですか。

<事務局>

はい。

<議長>

資料3-①は、委員の皆さんから、全部で54のご意見を頂戴し、それに対して、回答対応の赤の部分は、そのまま承して変更。黒の部分は、こういう考え方を委員会として持っていてこのままいきたい、青い部分は検討。検討した結果を資料3-②と合わせ、こういう修正していますという読み方になると思います。

質問された方は、自分の質問に対する回答がそれでよいかもう1度吟味し、質問をしていない方は、完成版を見て、この内容で良いか、ふりかえっていただければと思います。3分ほどで確認してもらっていいですか。

<議長>

ご確認、ありがとうございました。それでは、先ほど言った視点で、事務局へのご質問・ご意見等があればお話しください。尚、学校関係者も念のため、遠慮なくご発言ください。

<委員>

はい、すみません。A・No.5:「自由記述を増やしては」という件に関しては、私が書かせていただいたと思うのですが、当方でも、いろんな保護者アンケートを毎年取っています。項目に対する回答と自由記述も付けて、改善のためのいい意見は自由記述にたくさん書いてあり、非常にありがたいなと思っているため、こういう意見を入れました。

たくさん意見が出て集計が大変という話でしたが、そのとおりだと思います。たくさんご意見をいただき、回答も大変ですが、現状の実態や意識を把握するためのアンケートなら、あったほうがいいと思います。

意見に一個一個、全部詳しく回答する必要はないと思いますが、例えば、共通する不安に対して詳しく説明できずし、把握していなかった課題や意見が出る可能性もあり、最後に一枠でも自由に意見を書く欄を設け、いろんな意見を広く伺った方がいいアンケートになるのではと思いましたので、ご検討ください。

<議長>

今、自由記述のことでご意見があったんですが、他の委員の皆さん、自由記述についてどう思われますか。自由記述っていうのは全部1つ1つ回答するものなのですか。取られている自由記述とか。

<委員>

いつも項目別ではなく、最後に自由欄を設けて、「自由にご記述ください。足りなかったらアンケートの裏に続けて書いてください。」としています。中には、びっしり書かれている方もおられ、全然書かれない方もおられます。普段なかなかコミュニケーションが取れていない保護者のご意見を聞けるわけで、非常に貴重な機会だと思っています。

<議長>

フィードバックは、こういう意見が出ましたよというのを、みなさんに一覧にしてお返りする感じですか。

<委員>

そうですね、大体、毎年100件ぐらいあるんですが、全部回答をしております。皆さんに見える形で、10何ページぐらいになりますが、コミュニケーションの一つとして、公開しています。

個人情報分かるものはぼかしたり、個人が特定できるのは削ったり、出さないでと書いてあるものは載せない。匿名なので回答できないのもあるが、共通で答えられるものは、そういう形で回答しています。

<事務局>

運営等に関して、ご意見・ご要望・質問があればという形の設問として出されているということですか。

<委員>

設問としても、なんでもどうぞという、意見もそうですし、普段話せないこととか、特に制限をせずに、アンケートの最後で、ご意見とか何かあればご自由にお書きくださいというような形でお聞きしております。

<議長>

今のを聞いて、いかがですか。自由記述について。

<委員>

アンケート結果については公表されるのでしょうか。

<事務局>

はい、公開を考えております。

<委員>

自由記述になった場合も公開になるんですね。

<事務局>

ある程度、書いていただいたことについてはそういうふうになるのかなと思います。すみませんちょっとマイクで



お話しただいていいですか。後の記録のこともあるのですみません。

<委員>

自由記述については、それに対しての答えを公表ということになるわけですか。作業が煩雑、大変ですね。

<議長>

これは意識調査なので、自由記述があってもいいかなと僕は思います。意識を調査するだけなので、回答は不要だと思います。お話があったように、項目では拾いきれない小中一貫教育へのプラスの意見が出るかもしれない、もちろん懸念課題も出るかもしれない、それに回答するのではなく、自由記述にはこんなことが書いてありましたと、載せる・載せない、個人情報等に気をつけて公開するならば、当局にも負担もあまりかからず、グーグルフォームだと簡単にまとめることができ、できないことではないなと思いますが、教育長さん、事務局いかがでしょうか。

<教育長>

なんでもいいということではなく、小中一貫教育に関わる、現状認識という範疇での意見はお聞きしたい。共通項が多いものや個人情報への配慮は当然で、ある程度こちらの裁量でできるだけ公表したいと思います。

<議長>

意識調査ですので、教育委員会の回答は不要だと思います。まず、どういう意識を持っているかを集める。

一方で、自由記述を画策してしまうと、今度の意識調査自体の意義が薄れる可能性があります。「小中一貫教育のことについて、お尋ね等あればお書きください。」みたいな、本当に集約された、目的に合ったものにといい、教育長さんの考え方を、今回の方向にしたらと思うんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

<委員>

それで構わないと思いますが、教育長先生がおっしゃったように、拡散すると困るので、大事なものは鑑だと思います。どう保護者に投げかけるか、鑑にどう記述するかを練った方がいいと思います。それで、自由記述も、ある程度集約できるのではないかなと思います。

<議長>

このアンケートの目的はなんでしたっけ。

<事務局>

児童生徒、教職員、保護者、地域の皆さんが、小中一貫教育や学校規模が小さくなること、ここから先どういう教育システムを選ぶのかを、どう考えておられるかの把握をすることです。

前回出した資料8の表紙の裏に、そのことを書いています。大きくは、小中一貫教育のねらいである9年間を見通して教育をすることを意識し、段差の解消やこれまでも取り組んでこられた本町3校の取り組み等をどのように感じ、何を期待されているのかを把握し、これからの論議の資料にしたいと思います。また、私たちがどういう課題意識を持って先進地視察に行くのかを整理していくための材料としても考えています。

<議長>

まず、鑑にしっかりその目的を書くということ。「本町は小中一貫教育の制度の導入について検討を始めました。このアンケートは云々…」と書いてあり、これから後もずっと続くわけで、今後また聞きたいことがあれば、自由記述は例えば、「小中一貫教育制度の導入について、質問等があれば自由記述にお書きください。」とか「わからないところがあれば、お書きください。」ぐらいの設定で、自由記述をすることで落ち着く気もします。どうでしょうか。

そうすると結果として、これからの課題作りにも保護者や先生方の疑問にも答えて、是非が決まっていくことの大きなポイント、エビデンスになる気がしますが、いかがでしょうか。

<議長>

最終的には、事務局にお任せして、また何らかの形で提示していただき、この内容で難しいところがあれば、また教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。ほかの案件で、お尋ね、ご質問等ございませんか。

<委員>

アンケート内容でよろしいですか。

その前に、木村先生が、2回目に学校関係者からしか話を引き出せなかったとおっしゃったんですが、1回目はあまり学校関係者のお話が聞けなかったので、2回目は十分に聞いて、私としてはよかったなと思っております。

アンケートに関する事で、修正をした方の字が小さく見づらいので…。私は、「思う」と「感じる」のはどう違うのかを指摘し、統一したほうが良いと思いました。小学校の方は修正できていて、中学校の上の方がまだそのままなので、これもやっぱり統一した方が良いと思います。

<事務局>

すみません。字が小さいのは、横に設問のねらいも一緒に併記をしたので、このサイズでしか印刷できませんでした。また、中学校の方も「思う」という記述に変えるつもりでございましたが、申し訳ございませんでした。

<議長>

ありがとうございました。もう他にありませんか。

<委員>

集計される側が大変だろうと思います。今回は、一貫校に関する事なので、一貫校のことだけ書くべきだし、アンケートの項目に対するご意見も考えられるので、学校に関する事だけを書くとした方が良いと思いました。

<議長>

はい、ありがとうございます。まず、語句の統一については、もう事務局にお任せします。よろしくお願いいたします。

今のは、自由記述に関しても、やっぱり意識調査という目的を大事にしようというご意見だったと思います。「小中一貫教育制度に絞って、このことについてお尋ね等あればお書きください。」というように絞り、当局自体にも負担がいかないような意識調査にするというご意見でよろしいでしょうか。承りたいと思います。

その他ございませんか。お願いします。

<委員>

うちでも自由記述で、保護者さんが悩んでいることに気づき、私たちが気づかないことを書いてくださることに感謝しています。前回欠席でわからずに、小・中学生がいる職員ひとりひとりの職員に、「何が、どんなことが心配？」と尋ねると、「授業につまずいた時が心配」というのが出ました。すごく大事なことだと思うし、自由記載には、保護者や子ども達からの貴重な意見があると思います。

<議長>

わかりました。つまずきへの対応は書かれてあります。今、「つまずき」というのが出たんですが、具体的にどんなつまずきが心配か聞かれましたか。

<委員>

そこまで聞いていませんが、中学生で、勉強がついていけるかが心配なことと、ついていけなかった時、子どもがつまずいた時にどうすればいいのかが心配ですと、今から心配なさっている保護者さんもいらっしゃいますので。

<議長>

分かりました。粹組みへのご心配なんだと思います。逆に言えば、これを解消する回答が、実は小中一貫教育のメリットなんです。そういう気づきが出ると、メリットをきちんと返せる構図になると思います。ありがとうございます。

1つだけお願いがあります。途中で10分間、休憩の予定でしたが、もしお茶を自由に飲まれても、トイレも自由に行かれて結構ですので、4時まで続けてもよろしいですか。許可が得られれば、そのまま続けたいと思います。よろしいですか。気にされず、行かれてください。

<教育長>

事務局で加えたのが、「学習が難しくなること」です。小学校から中学校に上がって、学習内容が難しくなるというのも、「つまずいた時に心配」というのと関係があり、増やしたというのがあります。

<議長>

いい内容の項目が上げられたと思います。アンケートの件は、一旦ここで終わることによろしいですか。どうぞ。

<教育長>

事務局で検討したんですが、結論が出ないままにしているのがあります。教職員用のアンケートの15、「義務教育学校(小中一貫校)で勤務したいと思うかどうか」という問いです。検討して、なかなか難しかったんです。勤務したいか、そうでないかを問うことで、どうそれを活かすのかがちょっと読めないところがあって、15の小中一貫教育の必要性は①～④にあるのではということで、なくしてもいいのかなという思いもしております。

それから、冒頭あいさつで申し上げましたように、小中一貫校が県内でも全国的にも広がる中で、勤務したいかどうかを問うことがどうなのかということも、ちょっと考えています。

<議長>

教育長さんから、問いが出されましたので、ぜひご意見を頂戴したいんですが。私も勘違いしておりまして、こういうふうに教育教育委員会が項目を立てたのかと思っていましたが、そうじゃなかったんですね。ここには、私も意見はありますけれど、ご提案された方も、多分提案の理由等があると思います。もしよかったら聞かせていただきたいし、率直にこの項目について有無等についてご意見をいただいても構いません。はい、お願いします。

<委員>

私がこれ書きました。理由が、小中一貫校の勤務についての意欲、意識調査ですので、意欲がダイレクトにわかる、そういう項目を入れてはどうか。実際そこで勤めたいと思いますかということ、教職員向けですので、ダイレクトに聞いたらどうかと思いついてみました。確かに、①～④で、その必要性や重要性の意識は、捉えられるとは思いますが。

<議長>

ありがとうございました。今の話も含めてどうですか。

<事務局>

もし入れるならば、どれを選ぶかなんですが、「どうしてそれを選ばれましたか。」というのをもし入れるならば、例えば、「自分自身が、小中一貫教育に関してまだ十分な情報を持たない。」とか、いろんな先生方の状況があらわれると思うんですね。そうなれば、またこちらの情報提供の必要性等の課題が明らかになるのかなと、今思いました。

<議長>

私も、委員として、率直に意見を言わせていただきます。職員のことを本当に考えて、この項目を作られたと充分認識しています。将来的にそうなれば、職員の意識を敢えて取る必要があると思いますが、私個人の意見は、東彼杵

町子ども達にとって、小中一貫教育が必要かどうかという意識を問いたいです。例えばの話、「先生たちがそこに勤務したくないので、そういう学校は作らない。」というロジック(論理)にはならないと思います。

個人的には、子どもを真ん中に置き、小中一貫教育が必要かという意識調査をし、そういう方向になった時に、今のままで小中一貫校や義務教育学校に勤務したいかについて、例えば「働き方改革」を問うて、乗り越えないといけないところを存分に話し合い、実現のために開催することが必要なステップだと思います。

私個人の意見として、今回の意識調査に関しては、目的に添うというたった1つの視点で、この問いは今回は避けてもよいのではないかという意見を持ちました。

私、一委員として発言しましたので、他の方で何かご意見があれば、続けていただければと思います。

#### <委員>

小中一貫となると大変だろうということも含め、それでも東彼杵町のために頑張りたいという気持ちがあるのかを聞きたいと思い、これを入れております。それがその①から④で汲み取れるということでしたら、これは却下させていただいてもいいかなと思います。

あと、プラスの方だといいいのですが、マイナスの方にこれを読み取られたり、どう思われるかも考えないといけないと思いますので、ここは却下してもよろしいかと思います。

#### <議長>

それでは、ここについては取り下げる方向でよろしいですか。今の懸念されていることについては、ぜひ教育委員会がしっかり対応していただければと思います。

他にアンケートについてはありませんか。教育委員会もよろしいですか。アンケートはここまでにしたいと思います。実際に、整理して調査を開始するのはいつですか。

#### <事務局>

今月中に整理をして、8月の登校日に、タブレット等の使用のこともありますので、対応できればと思っています。

#### <議長>

先ほどありましたが、最初の鑑も合わせて完成したら皆さんに送って頂き、数日でも構いませんのでご意見等を確認した上で実行して頂ければと思います。それでよろしいですか。よろしく願いいたします。

それでは、2つ目の先進地視察について、事務局から2つの先進地域の資料がでています。委員会としては、今どちらに行こうとしているか、必要な準備、時期等を、短く具体的に提案していただき、意見を頂きたいと思います。

#### <事務局>

資料4-①は、高森町教育委員会の「市長部局等との共同による新たな学校モデルの構築事業のまとめ」という文部科学省の資料です。ICTを活用した取り組みでも有名で、平成23年頃から取り組まれ、町内2つの中学校区で、1つは義務教育学校に移行しています。阿蘇に近く、条件的な大変さを克服するために、町全体で取り組まれています。

もう1つは、大分県の豊後大野市で、表紙には令和3年5月となっています。ここも、山の中の小さな町で、豊後大野市ではありますが、校区も小さく、昨年度に学校統合があり、こちらが参考になりやすいと思います。

大分県と熊本県の県境にあり、あわよくば2カ所とも考えたり、距離を考慮したり、問合せもまだで、具体的な校舎や子どもたちの様子を実際に見て、東彼杵町における一貫校をイメージしやすい視点で考えたいと思います。

#### <議長>

選定のポイントは、東彼杵町と同じように町を上げて、小中一貫をされている学校、町を選択され、九州の中でということです。豊後大野の千歳の方が、最近取り組んできており、今ちょうど東彼杵町が課題と考えている見取りや聞き取りができ、高森はずいぶん以前からの長いスパンの中での取り組みということです。

教育長さん、あわよくばという話もありましたが、1つか両方か、どちらかがという判断を伝えてありますか。

<教育長>

高森町には2年前に、8町の教育長で ICT 教育が盛んだということで行ったんですが、小中一貫教育をされているんですよねと聞いたんです。ICT 教育も始めたのが10年前、2年前にそうおっしゃいました。

山間部の方と町部の方と2か所の小中一貫校で、山間部の方は小さくなって、義務教育学校にしたということでした。10年経っているので、いろんな成果や課題を聞けるといいなと思ったんですが、遠くて3時間かかるんです。往復で6時間。わずかしが見れないです。教育長会では、1泊2日で、ゆっくり聞けました。

豊後大野市の千歳町立小中学校、規模が本町よりちょっと小さく、最近一貫校にしたということで、関係者もまだいらっしやるので生の声を聞けるのかなと思います。できたばかりで、どこまで成果が出ているを聞けるかどうかわかりませんが、どういう意図や経過を経て小中一貫に踏みきったかが聞けると思います。

高森町も成果を言われると思いますが、10年前の方々がいらっしやるか分からないので、残っている記録ならお願いして取り寄せることができるのかなと思います。豊後大野市の小中学校がいいのではと思っています。

ここも高森町と隣の分県ですが、同じくらい遠いです。両方は近いので、行けそうな感じですが、時間が取れるかわからないので、どちらかといえば、豊後大野市の方が良いのかなと、今は思っています。

近いところで探したんですが、佐賀県はかなり小中一貫校が進みます。10年前からやっているところがほとんどです。参考になるかなと思いますが、佐賀県は結構あります。平成28年度に制度改革がある前からのところもあり、その時の事情と変わっているので、どれだけ活かせるか分からないなという感じで、なんとも言えないです。

<議長>

わかりました。ちなみに、1日で行くか 2 日で行くか、それが分からないとですね。

<次長>

予算的には1日しか設定しておりません。

<議長>

出席できるかどうかは別に、委員の皆様にお声かけして、1日かけていく先は1つになるということです。千歳の方が、東彼杵町の今の状況に似ているではないかというご意見がありました。

実は、小中一貫教育はたくさん実施されています。佐世保や長崎でもされていますが、東彼杵町と少し違うと思います。一般的には、同校区内の小中学校が一緒になり、いろんなことが変わるわけではなくて、教育課程が義務教育9年間で行われるということが大きく変わるんです。

例えば東彼杵町のように、学校を集約したり、離れているいくつかの学校が小中一貫になるのとは、ちょっと違うので、同じような状況のところに行きたいというのは、その通りだと思います。

なんでも結構です、気づきや思いをお知らせください。再度、改めてご提案いただくことで大丈夫ですね。

意識調査や結果を含め、行く時の質問事項もまとめて確認することでよろしいですか。何月頃行く予定ですか。

<事務局>

両方の都合、準備、町の課題との照らし合わせ等も含め、9～11 月と、幅を持たせることになると思います。

<議長>

行く日は、向こうが開場している平日ですね。皆さん平日は忙しいと思う中で、かなり早めに調整をしないと、多くの方が出席できるか疑わしいなと心配になりました。よろしくお願いします。

柱の3つ目です。皆さんのご意見を、最後にお聞きしたいと思います。会も3回目になり、1回目は小中一貫教育とはどういうものかということを中心に、2回目は東彼杵町の現状、取り組み、今後のロードマップなどのお話を、そして3回目、実際に意識調査をしたり実際に見に行ってみようという話をしてきました。一回一回を通して、小中一貫教育という制度への理解、導入への意見を、少しずつ固めていただいています。

3回終わったところで、小中一貫教育が子どもたちにとって必要か、東彼杵町にとってあったほうがいいと思うか、

こういうメリットを感じた、こういうところがわからない、そういうところを残った僅かな時間ですが、皆さんからこれまでをふりかえってお話いただければと思います。どなたからでも結構ですので、今後の計画の参考にしたいと思いますので、ご意見をいただければと思います。

<委員>

学校関係者は、小学校・中学校でどういう教育活動が展開されるかイメージがつくと思います。委員の皆様は、是非を判断する際、学校の様子を知りたいのではという気もします。こんな活動が展開され、一貫教育にはこういうメリットがあり、逆にこういうことが引っかけるといのは、多様な情報により、どっちにしようかという話がより深くできると思います。もう少しイメージをふくらませたいと思われているかなと、お話を聞きながら感じました。

<議長>

いみじくも、イメージしにくいのではという話ですが、どうですか、今までの会に参加されて。どなたでも結構です。

<委員>

自由記述で、私たちが想像しないような率直な意見がもらえるとと思います。そういうところが不安なんだとか、そういうところを期待しているだとかを踏まえて、進めていけるのかなと思いました。

学校がどういうことをしているか、私も保護者としてよく分からないところがあり、子どもの話だけではよくわからないとか、学校のお便りだけでは理解が難しいと思うので、小中一貫になるとこういうメリットがあるというのを打ち出して、それを踏まえてのアンケート調査の方が、より良い意見がもらえるのかなと思いました。

<議長>

1回目に、事務局が提示した小中一貫のメリットを、多くの人に提供できるといいですね。

<委員>

小学生には絵をいれたりして、こんなことができるということが子どもたちにもわかりやすい資料になればと思います。大変でしょうが、わかりやすいのがいいと思います。

<議長>

子どもたちの理解を促進するために、意識調査の中でどういう工夫をするかはお任せします。将来的に、この委員会で、小中一貫学校を作るとなると、小中一貫教育ではこんなことが始まりますというのをお知らせするために、当然パンフレットとか必要になってきます。それをどのタイミングで作って出すかは、工夫が必要だと思います。

一方で、何でも全てを完成させて一步を歩き出すとなると、時間がかかるので、まずは意識調査をさせていただき、そこでまた今言ったようなことが浮き彫りになるかもしれないので、意識調査を受けて様々な工夫をするということで、同時進行型を認めていただくことが、進めていく上では一つ大事なポイントになると思います。充分にご意見をいただきながら進めていただきたいと思います。

率直なところでいいので、もし思うことがあれば教えてください。

<委員>

今日初めて出席して、これまでの議事録も読んで、私も小中で統合があった世代で、子どもたちの意見が、統合の時に反映されたのかなという疑問があり、今回この応募にも至った経緯があります。

子どもを真ん中とする教育をして行く中では、子どもたちの率直な意見や周りの保護者の意見というのがとても大事になってくるので、自由記述の中でもしっかり書いていただいて、それを見える化していくのが必要になってくるのかなと率直に思いました。私も生徒会活動とかして行く中で、自由記述も進めてきて、その中で自分たちが見えないところを周りの人から教えていただいて、それをいい方向に進めるには自由記述は非常に大切になってくるので、ぜひ導入してほしいなと思います。

<議長>

ありがとうございました。とてもよくわかりました。

コロナ禍を子どもが経験して、1つ大きく学んだことは、いろんなことを決めるときに、多くのことを大人が中心になって決めた結果、教育にいろんな歪みが生きて、コロナ禍の後に学んだことは、しっかり子どもたち、学校以外の方の意見も聞く、保護者の意見も聞くということを学んだと思います。

僕は、東彼杵町はそれを今、されようというふうにしてるんだろうなと思います。この意識調査が、それを支える1つのエビデンスになることを期待しています。

一方で、戦前まで義務教育は6年間だったんです。戦後に9年間になり、中学校が乗っかり、制度が先に強くなり、小学校と中学校になるんですが、実は義務教育の9年間で育てるというのが、日本の教育の本質なんです。

だから、学校の制度は、その後小中学校になって、そこを強く意識していろんなことを考えているのですが、共通しているのは、9年間で子どもを育てよう、そのために学校組織や学校というのはどうあるべきか、義務教育の役割は何なのかを、この委員会は本質で問うているんだと思います。

それは、子どもにとっての学校はどんな学校か、その論議がこの会がすすむ中で、東彼杵町なりの意見が作られれば、素晴らしいことだということを、委員の1人として最後に申し添えたいと思います。

ここまでで、私の役目を終わりたいと思いますが、もう一言、言いたいことはございませんか。よろしいでしょうか。では、事務局にマイクを戻します。

<進行>

木村先生、議事進行ありがとうございました。また、委員の皆様も、貴重なご意見等をありがとうございます。

次回の第4回は、当初計画で9月を予定させて頂きましたが、今後のスケジュールの中で、若干変わる可能性もございます。次回の会議は、先進地視察で準備をしますのでよろしくお願い致します。後ほど、視察地と調整を行ない、確定次第、ご連絡を差し上げたいと思いますので、よろしくお願い致します。

全体通して皆様の方から、確認なりお尋ねなりございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

<委員>

すみません。前回のアンケートにも書かせていただいたんですが、検討資料がたくさんあるので、可能であれば事前にいただけるとありがたいなと思っております。電子ファイルでもいいんですが、会議前に目を通させていただくと、いろんな意見が出やすいと思いますので、事務局の方、準備大変だと思うんですが、お願いできればと思います。

<進行>

今後、主な資料は、先に目を通していただく対応をしていきますので、よろしくお願い致します。

また先ほどありました、アンケートの最終的に決定したものは、電子メール等で、皆様方にお目通しいただけるように調整していきますので、合わせてよろしくご確認をお願いいたします。

最後、3回目のアンケートについてのご相談をさせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

資料の件は、決済に時間がかかりますが、可能であれば、大方出来上がった分をメール等で発出したいと思っております。

アンケートにつきましては、今までずっと紙媒体で出していたのですが、今回は QR コードを読み取っていただき、ICT で送付ができるようにしています。必要なら、メールアドレスをご登録いただいている方には、アドレスをお送りしておきたいと思っております。そちらからの回答でも結構ですので、よろしくお願い致します。

<進行>

アンケートにつきましては、お忙しい中恐縮でございますが、ご協力をお願いいたします。

これもちまして、本日の会議を終了させていただきます。皆様、大変お疲れでございました。

以上で散会いたします。ありがとうございました。